

平成28年度事故の分析結果

作成日：平成29年7月20日
横浜営業所 所長 山本達雄

48件の事故(被害事故4件は含まない)の内、構内事故は22件でした。45. 83%が構内事故です。

- 1 相変わらず14件とバック事故が多かったです。
原因は、安全確認不足です。殆ど左右後方の確認不足です。(観音扉を開けた状態にもかかわらず)まずバックを始める前に一旦停止して、左右・後方の安全確認を行って下さい。(3～5秒程度)、見えづらい場合は、必ず降車して確認する事。
スペースに余裕が有る場合は、バックする場所に対して(バースに対し)真直ぐバック出来る様にすること。
一気にバックせず、途中で一旦停まって再度安全確認する事。
- 2 今年度も目立つのは、一般道での事故です。
 - ①居眠り運転、スマホ、携帯電話のながら運転による前方不注意と疑われる事故が目立ちます。
 - ②運転に集中して下さい。視線は1か所を注視するのではなく、前後左右常に動かしている方が眠気は起きにくい。
 - ③狭い道路では、対向車に道を譲る気持ちの余裕を持っていれば、事故は起きていなかったケースが多いです。
 - ④急ぎ、焦りは禁物。一般車両の割り込み・飛び出しにいちいち腹を立てない事。
- 3 入社後、3年以上のベテランの事故が目立ちます。
油断せず、運転に集中し、「かもしれない」運転を心掛ける様、お願いします。
- 4 リアオーバーハングの確認不足による接触事故も目立ちます。
特に観音扉が開いた状態で動かすときは、慎重にお願いします。
- 5 平成28年度は、休み明けから3日目までの事故が、圧倒的に多かったです。
これは、休日の過ごし方に原因があるかもしれません。十分に疲れが取れる過ごし方を工夫してほしいものです。

我々は、模範運転を示すべきプロドライバーです。

安全とエコがあって、会社は成り立ちます。

周囲の素人ドライバー、歩行者、2輪車は、ルールが守れないものと考え、見本になる運転をお願いします。